

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月16日～

先週もドル／円は安値を切り下げ、円高が少しずつ進行中です。

利下げは株にとってはプラス要因でもあるため、利下げ歓迎という雰囲気はマーケットにはありますが、日本株は円高の影響で下げやすくなるため米国株が上がっても日本株とドル／円、クロス円は下がる動きが出る可能性があります。

今週は米国の金融政策を決めるFOMCがありますが、年末にかけてどの程度のペースで米国が利下げを行うかに注目が集まっています。

今回は0.25%の利下げで、年内に1%程度の利下げを行うという予想が多くなっています。

ただし、今回0.5%の利下げというサプライズもあるかもしれません。

そして、日本も日銀金融政策決定会合があります。

最近、日銀が利上げに対して前向きな発言を行うなど、次回利上げの動きがどうなるかも気になります。海外勢は日銀の動きをかなり警戒しています。

前回の利上げでは8月に大混乱となったため今回の利上げはないと思いますが、マーケットが落ち着いていれば年内にもう1回利上げを行うかもしれません。

日本だけが利上げ、米国とそれ以外のほとんどの国が利下げに動き出していることからドル／円、クロス円ともにファンダメンタル的に見ると下落圧力が強まっています。

先週、ECB(欧州中央銀行)は予想通り利下げに動きましたが、次回の利下げについては不透明で、今後のデータ次第で政策を決定するという方針を維持しています。

米国も欧州も利下げのペースは不明ですが、今後しばらくは利下げが続くことを考えると円に対して、ドルもユーロも下がりやすくなります。

下落トレンドに転じると上昇トレンドの時に比べて下げ幅が大きくなるためリスク管理をしっかりとらないと危険です。

日足だけでなく、週足と月足も見ながら、どのあたりが下げ止まりのポイントになるかなどを意識しながら取引していくことが大事です。

今週は日米の金融政策を見極めるまでは円高圧力が継続しそうですがイベント通過後は流れが変わってくるかもしれないので、テクニカルをしっかりと見ながら取引していきたいです。

また、今週は南アフリカと英国でも政策金利の発表があります。

南アフリカは利下げ予想が多いですが英国は、今回は据え置くのではという予想が多くなっています。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は144円を回復できずに、143円台後半で上値を抑えられました。

日銀のタカ派的な発言で140円台後半まで急落する場面もあり、円高が進みやすい状況が続いています。先週末は140円台で取引を終えているため今週は140円割れとなるリスクも高く、下げ止まるまで買いは慎重になった方がよさそうです。

下値は、140.2円を割り込むと昨年7月の安値の137.2円あたりまで下がる可能性があります。

上値は、143円あたりの抵抗を超えることができるかどうかです。

今週は137-142円程度のレンジを意識しながらトレードしたいです。

<気になるクロス円>

クロス円も9月に入ってから下落が続いているペアが多く、週足で見ても陰線が2本続いているため下落トレンド継続中です。

今週はドル／円が大きく下がる局面があれば、クロス円も下がるリスクが高まります。

まだ下げ止まっていないため買いは見送りで、売りのチャンスがあれば売ってみたいですね。

また、最近は乱高下も多いので、利益が出たらほどほどのところで利益確定することも大事です。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では7月機械受注、8月貿易統計、日銀金融政策決定会合、8月全国消費者物価指数、植田・日銀総裁定例会見などがあります。

米国では9月ニューヨーク連銀製造業景気指数、8月小売売上高、8月鉱工業生産、9月NAHB住宅市場指数、8月住宅着工件数、FOMC政策金利、パウエル・FRB議長定例会見、7月対米証券投資、4-6月期四半期経常収支、9月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、8月景気先行指標総合指数、8月中古住宅販売件数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで9月ZEW景況感調査、ユーロ圏で8月消費者物価指数、ラガルド・ECB総裁発言などがあります。

ほかには、カナダと英国で8月消費者物価指数、南アフリカと英国で政策金利、ニュージーランドで4-6月期GDP、英国で英中銀金融政策委員会(MPC)議事要旨の発表などがあります。